

発言No.

3

受付No. 19

令和7年11月20日

10時42分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 11 番

氏名 足立 豪

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 保育事業について

我が国の人口減少は深刻さを増している中で、浜田市においては令和7年度4月～9月までの出生数が105人で、本年の7月には11人という驚くべき少なさである。今から10年前の2015年には出生数が407人であったが本年度は200人前後となり、さらに10年後には年間の出生数が100人を割り込み異常な状況が想像できる。

市長は、所信表明において「今後の浜田市に大切なことは、人が減っても持続できる地域の姿を描くことであり、現実を変えていく最大の鍵は“人を育てること”」と決意を述べられている。しかし、急激で止まらない人口減少と少子化は浜田市だけでなく石見地域・社会構造の崩壊、すなわち地元経済の崩壊、地域所得の減少、医療や介護保険制度の行き詰まり、教育の劣化、さらには婚姻や子育てを求めている脱出的な転出増加で、県西部の地域社会・地域経済へ致命的な影響を誘因するものである。

このように社会そのものの構造が大きく変化している今、その中で子育て環境を充実させることが「人を育てる」に他ならないと確信しており、預ける保護者も安心してこの地域で働くことができる。急激な人口減少と少子化の中で、“保育園”ならびに“こども園”の果たす役割は大変重要であり、浜田市の子育て環境について伺う。

(1) 保育園並びにこども園について

①現状について

令和4年3月議会、並びに令和5年3月議会にも同様の質問をしているが、現在の状況を伺う。

②保育士の配置基準について

令和4年3月議会並びに令和5年3月議会でも0歳児の保育士配置基準について質問を行い、安心して預けられる保育の充実のためにも基準以上の配置について答弁を求めた。その後の進捗状況を伺う。

③0歳児に対する保育士の配置基準を保育士1人に対して3人から1人に対して2人にした場合の浜田市独自の財政負担を伺う。

(2) 保育料無償化について

①現状について

第3子から保育料無償化に取り組んでいるが、5年間の財政負担も含めた推移を伺う。

②第1子から無償化にした時の浜田市の財政負担を伺う。

2 在宅生活の尊厳を守る「訪問入浴サービス」の持続的提供と活用促進について

過疎地域である浜田市の高齢化率は38.86%（令和7年10月末）に上昇し、全国的に非常に高い水準である。

高齢化というのは、7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会といわれている。フランスでは高齢社会になるまでに114年かかっているが、介護保険制度を世界で初めて導入したドイツは42年で高齢社会(14%)に突入しており、我が国は7%から14%になるまでに24年という、ドイツの半分の期間で達成してしまっており、当時これは人類史上最短の記録である。（後に韓国が抜く）

ちなみに、現在日本の高齢化率は21%をはるかに超えた約29.3%で前人未到高齢社会になっている。浜田市ではそれを遥かに上回る高齢化率38.86%であり、高齢化率40%や50%の世界が目の前に迫っている。

このような中で、高齢化・少子化・過疎化が進む浜田市においては、高齢者の尊厳を守り、可能な限り住み慣れた地域で人生の最期まで暮らし続けることができる体制づくりが、これまで以上に重要となっている。

高齢化が進み「地域包括ケアシステム」の“深化”が求められる中、最期まで自宅で暮らしたいと願う市民にとって、入浴は単なる衛生保持だけでなく、精神的な安らぎやQOL（生活の質）の維持に不可欠でもある。

現状、浜田市においては地域包括支援センターを浜田市社会福祉協議会に委託をされているが、地域包括ケアシステムの現状と在宅サービスおよび課題と将来像について伺う。

(1) 地域包括ケアシステムの理念について

地域包括支援センターを浜田市社会福祉協議会に委託され、地域の高齢者の生活を支える“玄関口”として機能させていることを踏まえ、次のとおり伺う。

①地域包括ケアシステムの現状について

②地域包括ケアシステムの評価について

③地域包括ケアシステムの課題について

④地域包括ケアシステムの将来像について

(2) 在宅生活の尊厳を守る「訪問入浴サービス」の持続的提供と活用促進について

訪問入浴サービスは、在宅で暮らす重度の高齢者や障害のある方にとって、時に“最後のライフライン”となる極めて重要なサービスである。しかし、人材不足や採算性の悪化などにより、浜田市においては独自の支援策を講じている。

高齢化がさらに進む浜田市において、訪問入浴サービスが途絶えることは、在宅生活の継続可能性そのものを揺るがしかねない問題でもあるため、次のとおり伺う。

①浜田市の過去5年間の訪問入浴介護サービスの利用者推移について

②益田市・江津市の訪問入浴介護サービスの利用者推移について

③介護度が重度化する中で、潜在的なニーズについて

④浜田市独自の支援策を講じたことによる新規相談件数と実利用者について

⑤サービス継続に対する浜田市の危機感について